

令和4年度 学校自己評価システムシート（県立春日部工業高等学校）

目指す学校像	あらゆる教育活動をとおして「技を磨き心を育む」教育を実践し、SDGsの達成に貢献できるタフで人間性豊かなスペシャリストを育成する。
--------	---

重点目標	<p>1 確実な学力の定着を図るとともに、学習全般をとおして技術の力で持続可能な社会を創造できる能力を育成し、進路実現を行う。</p> <p>2 生徒指導、学校行事、部活動をとおして、タフな心と他者と協働する力を身に付けるとともに、公正さや人権感覚を醸成する。</p> <p>3 地域の教育資源を活用した実践的教育を推進し、生徒の社会参画意識を醸成する。</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	5名
	事務局（教職員）	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価（1月26日現在）				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	
実施日 令和5年2月7日								
学校関係者からの意見・要望・評価等								
1	<p>【現状】 進路実現に向け、課題研究や資格取得に対し、積極的に取り組む生徒も多い。</p> <p>【課題】 新学習指導要領を年次進行で確実に実施するとともに、生徒全員が理解できる授業を目指し、ICT等も有効活用しながら授業改善や家庭学習の習慣付けに取り組む必要がある。</p>	<p>新学習指導要領の円滑な展開と、観点別評価の適切な運用を図る。</p> <p>生徒の授業理解度を向上させ、授業改善につなげる。</p>	<p>①年間指導計画書に評価の3観点を示し、校内で進捗状況を把握するとともに改善につなげる。</p> <p>②観点別評価について、三者面談等を活用し生徒・保護者に理解を得る。</p> <p>①ICTを有効に活用し、授業満足度が向上する授業改善を図る。</p> <p>②目的意識を高く持たせ、生徒を「やる気」にさせる指導の工夫に取り組む。</p>	<p>①円滑に実施することができたか。</p> <p>②生徒・保護者から理解を得られたか。</p> <p>①「授業が理解できた」という生徒の割合85%以上</p> <p>②「家庭学習していますか」という生徒の割合60%以上</p>	<p>①1学期末に教育課程委員会より各教科へ「観点別評価の課題等」のアンケート調査を実施し、校内で情報共有できた。</p> <p>②三者面談時に観点別評価についての通知を配布し、理解を求めた。</p> <p>①今年度80%で、ほぼ横ばいであった。「授業に熱心に取り組んだ」という生徒は、77%から82%となった。</p> <p>②昨年度43%、今年度45%で大きな変化はない。「1時間以上」という生徒は、14%から18%へ増加した。</p>	A	<p>新課程の初年度であったが、各教科で工夫・改善を繰り返し、実施することができた。</p> <p>学年の進行に伴って継続的に研究・改善を行い、指導と評価の一体化に向けた授業改善へ繋げる。</p> <p>授業への興味関心を高め、「授業が楽しく、理解できた」という生徒を増やすことを目的に、来年度、新たに導入される1人1台タブレット端末環境を有効に活用する必要がある。</p>	<p>・「授業に熱心に取り組んだ」という生徒が増加し、組織として観点別評価を適切に運用することで実態の把握に努めている。また、観点別評価について生徒や保護者の意見を聞きたい。</p> <p>・ICT等を有効活用し、創意工夫をして授業に取り組んでいる。今後も継続してほしい。</p> <p>・1人1台タブレット導入に関して、きめ細かな指導が必要かと感じる。有効活用してほしい。</p> <p>・授業の理解度を高めるには、予習復習などの授業以外の学習時間の確保が大切である。予習復習のためのノートの導入など、様々な方策の検討が必要である。</p>
2	<p>【現状】 生徒会行事や部活動が盛んで、来校者への挨拶や清掃活動など概ね良好である。</p> <p>【課題】 多様化する生徒へ対応するため個々の生徒理解を深め組織的な生徒指導を行う必要がある。生徒の誰もが満足感を感じられるように、日頃の学習や学校行事や部活動の充実を図る。</p>	<p>多様化する生徒に対し生徒理解に努め、細やかな指導体制の推進を図る。</p>	<p>①SCや巡回支援員を積極的に活用し、生徒に寄り添った学習指導や生徒指導を行う。</p> <p>②生徒の主体性を大切にし、学校行事にSDGsを取り込む。</p>	<p>①SC等の相談件数</p> <p>②各行事をSDGsに関連付けて取り組めたか。</p>	<p>①SC等と連携した生徒相談が、昨年度より増加した。巡回支援員や多文化共生推進委員（新規）の活用など、支援委員会を中心に学年や生徒指導部が連携し、粘り強い指導がなされた。</p> <p>②文化祭で「SDGs賞」や「感染対策徹底賞」を設けるなど、「持続可能な取り組み」が各行事で実施できた。</p>	A	<p>次年度も担任だけが抱え込まず、支援委員会やいじめ防止委員会が、組織として迅速かつ適切な対応を検討し、多様化する生徒の理解に努める。</p> <p>感染症対策を講じながら、2、3年生で修学旅行を実施できた。令和5年度で60周年を迎える。「みんなが輝ける学校行事」を検討する。</p>	<p>・特別な配慮を要する生徒が増加しているため、研修を深め生徒理解に努めてほしい。</p> <p>・SDGsの推進が求められている。今後も学校全体で取り組んでほしい。</p> <p>・生徒指導部よりきちんと方針が示され、組織的に対応している。マスコミ等が取り上げるブック校則により、校則の見直しを余儀なくされている。教員のみ話し合いだけでなく生徒会などの意見を聴く姿勢や保護者に対する丁寧な説明が大切である。</p>
3	<p>【現状】 保護者への情報発信と感染症対策を講じながらの地域連携は充実している。</p> <p>【課題】 成人年齢引き下げに伴い地域の教育を活用し社会参画意識を醸成する必要がある。生徒の活動の様子を積極的に情報発信することで、地域や中学生及びその保護者に対し工業高校の魅力の理解促進を図る必要がある。</p>	<p>積極的な情報発信と地域や企業と連携し、生徒の社会参画意識を向上させる。</p>	<p>①地域や外部人材との交流を通して、生徒のコミュニケーション能力の向上と自己肯定感を醸成する。</p> <p>②春工見学会等で中学校の生徒・保護者・教員に本校の魅力を伝える。</p> <p>③保護者に対し、きめ細かな情報提供を行う。</p>	<p>①地域交流や外部人材活用の実施回数</p> <p>②各科の入学志願者倍率1.1倍以上</p> <p>③「本校からの情報提供は十分に行われている」という保護者の割合90%以上</p>	<p>①工業三科が参加した地域連携が2件、中学校への出前授業が7件あった。三科合同課題研究発表会が三年ぶりに保護者や企業等を招待し公開予定である。</p> <p>②12月希望状況は、機械科0.99倍、建築科0.86倍、電気科0.71倍である。引き続き、生徒募集に努める。</p> <p>③今年度90%で概ね達成した。保護者の配信メールへの登録は86%となっている。</p>	B	<p>建築科とIKEAの連携授業では年間を通じて、実践的な指導を受けることができた。次年度に向け、東武鉄道との連携授業の検討も始めている。</p> <p>中学生が減少する中、工業高校を含む第2期再編計画が県より示された。それに同調し本校も「地域に愛され選ばれる学校」を目指し、学校の特色を明確に打ち出す必要がある。</p>	<p>・三科合同課題研究発表会は生徒が生き生きと説明を行い、いいものが作り上げられていた。</p> <p>・工業高校の強みは、スペシャリストの育成だと思う。その強みを活かしながら、ボランティア等を通して、地域や企業から求められる人材を育成してほしい。</p> <p>・生徒募集は課題である。進路状況の実績や出前授業など中学校へのアプローチや外部連携事業のメディアへのPRに期待する。</p> <p>・地域を絞っての体験学習会の実施など、足で稼ぐ取り組みも学校理解に必要なと思う。</p>